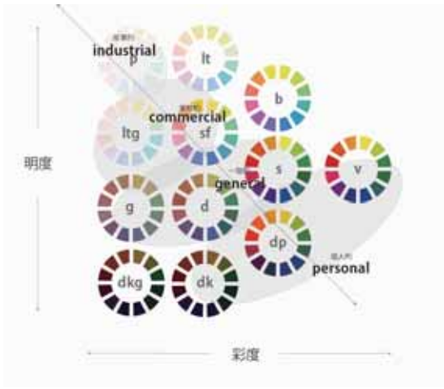
札幌市立大学
附属図書館
ニュースレター

のほほん

第11号
2018年1月

ロゴマーク　デザイン学部メディアデザインコース1期生　木村　尚史



梅川　未来『消費者行動を軸にしたカラースケール』

特集「新たな知を求めて」

向き合う心構え・覚悟
札幌市立大学付属図書館長　教授 ―― 宮﨑みち子

不自由の中で生まれる創造性
札幌市立大学デザイン学部・大学院デザイン研究科　教授 ― 石井　雅博

「知」に導かれ、「知」がつながりあう…そして未来へ
札幌市立大学看護学部・大学院看護学研究科　准教授 ― 古都　昌子

物理的な時間と生理的な時間・・・
札幌市立大学デザイン学部　教授 ―― 若林　尚樹

異分野の知に触れること
札幌市立大学看護学部　助手 ―― 大友　舞

人と自然が組み上げる知のかたち
札幌市立大学デザイン学部　講師 ―― 大島　卓

人は何を食べれば健康になれるのか
札幌市立大学看護学部　助教 ―― 柏倉　大作

「正義」とは何か？
札幌市立大学デザイン学部・大学院デザイン研究科　講師 ― 金　秀敬

学生の本にまつわる話

知の迷宮へようこそ。-図書館ぶらぶら歩きへのお誘い-

カウンターの内側から紹介図書

芸術の森キャンパス・ライブラリー企画展示
さっぽろアートステージ特別企画ART BOOK FAIR『Drawing!!～見る秋から描く秋へ～』

図書館貸出・視聴ランキング

札幌市立大学
附属図書館
SAPPORO CITY UNIVERSITY
http://www.lib.scu.ac.jp/

表紙の作品について

「カラースケール提案に向けた「消費者行動」と「色彩」の関係解明」
　札幌市立大学デザイン学部のH28年度の卒業研究において学部長賞を受賞した作品。製品の特性やジャンルの観点から「消費者行動」と「色彩」の関係を明らかにするプロセスを経て構築された『消費者行動を軸にしたカラースケール』。

作者紹介

梅川 未来（うめかわ みく）
札幌市立大学 デザイン学部 第８期生（製品デザインコース）
　在学中、製品デザインを学び、ロボットトライアスロンでデザイン賞を受賞、金の卵オールスターデザインショーケースへの出展を果たすなど高い評価を受ける。学外でも札幌イメージコーディネート研究会（ＳＩＣＳ）で実践的なカラーデザインを学んだ。
　卒業後は、その高いデザイン力をかわれ、株式会社SUBARU（スバル）にて自動車のカラーデザインにかかわる。

編集後記

▶ 札幌市立大学看護学部　准教授　神島滋子

　今回の特集のテーマを「新たな知を求めて」としました。
　図書館は知の宝庫です。それぞれが自身の価値観とことなるものに出会い、思考し、新たな「知」を見いだす場であってほしいものです。昨今は若者の文字離れが進んでいます。スマホなどで本を読むこともできますが、やはり紙のにおいを感じながら、本のページをめくり、新しいわくわくに出会う体験は素晴らしいものです。そんな体験を伝える特集となっているかと思います。
　10年一区切り。札幌市立大学の図書館は11年目を迎えました。少しずつ時代も変化していきます。新たなるスタートには新陳代謝も大切です。「知」という財産を身につけて、強く、しなやかに成長し続けたいものです。

札幌市立大学附属図書館ニュースレター
のほほん第11号

編　　集　札幌市立大学図書館運営会議
　編集委員　神島　滋子　伊東健太郎　檜山　明子
　武田　亘明　松井　美穂

発 行 日　2018年1月19日

発　　行　札幌市立大学附属図書館
　〒005-0864 札幌市南区芸術の森1丁目
　事務局　地域連携課　図書館担当
　TEL.011-592-2346

制作・印刷　三浦印刷株式会社

ご感想をお聞かせください。
library@jimu.scu.ac.jp

UD FONT 見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

特集　新たな知を求めて

向き合う心構え・覚悟

札幌市立大学附属図書館長
宮﨑　みち子

筆者紹介
札幌市立大学看護学部・大学院看護学研究科の教授（母性看護学領域）
札幌市立大学助産学専攻科の専攻科長
赤ちゃんが大好きです。女性の健康、特に発展途上国の少女達の健康を心配しています。また、人工妊娠中絶と胎児の権利、性暴力被害者支援などの研究に取り組んでいます。

イラスト
デザイン学部3年
滝波佑梨

ここでは、学生の皆さんがそれぞれの専門分野で創造的な取り組みを実践していくにあたっての**心構え**を、**覚悟**という言葉とともに考えてみました。

さて、高齢化が進んでいる現在の日本社会には 90 歳前後さらに 100 歳を超え、今なおお元気で様々な分野で活躍されている先人の方々が数多くおられます。近年、惜しまれながら天寿を全うされた方々を含め、先人たちが残してくれた書物が数多く出版されています。芸術分野、文学分野、医療分野、社会評論分野、宗教分野などなど。知名度の高い方ばかりではありませんが、それぞれの専門分野で人間として貫かれた生き方、歩みはとても興味深く、そして何より我が身を振り返り、考えるきっかけを与えてくれます。

1 孤立を恐れない

これらの方々は、太平洋戦争を核とする第２次世界大戦の悲惨な時代を体験されているという点で、私の世代はもとより学生の皆さんの世代とも大きく異なる人生を過ごしておられます。その戦争体験と反戦・平和への思いは別として、私が先人から学んだことは、孤立を恐れずに我が道を歩み続ける意思、**心構え・覚悟**ということです。

日本人はとかく集団の中で型にはまり、声の大きな人間に従属し、異論や異質な人間を排除していく傾向にありますが、そうした集団から離れる勇気、近づかないという**心構え・覚悟**は、あえて多難な人生を選ぶことになります。しかし、必ず良き理解者が現れ、正当な評価をしてくれる日が訪れるという確信を、読書を通じて学び取って頂きたいと願っています。

2 独創的な取り組みに挑み続ける

これらの方々でも、それぞれの分野で社会的に認められるまでに様々な苦労・努力をされています。しかし、時間はかかっても、その人にしかできない技術、独創的な考え方・作品、粘り強い取り組みが、それぞれの分野で実績を生んできたわけです。

こうした自分なりの取り組みを創造し育てていくために、皆さんには、大学で基礎的なことを体系的に正確に学んで頂きたいと思います。

実践的な技術を身につけるには、その裏付けとなる理論の学習が欠かせません。それぞれの分野では、先人の貴重な知的財産が理論史・学説史としてまとめられています。また、講義や書籍を通じて学ぶことができます。実践的な技術の習得には実習・体験学習を通じて、また先人たちの作品、先輩たちの体験事例を、書籍さらに映像教材等を通じて学ぶことができます。

しかし、授業科目の一つ一つで、何を学ぼうとしているかという目的・意義を自分なりにきちんと整理してから取り組まなければ、与えられたものを受け身でやり過ごすだけに終わりがちです。履修する授業の目的・意義を考え、自分の夢・希望に向かって積極的に取り組む姿勢を持ち続けること、すなわち、自主的に課題と向き合う**心構え・覚悟**を明確にして学んで頂きたいと願っています。

3 世界に広く目を向けながら人間性を豊かにする

現代社会の様々な事柄に自分なりの意見・考えを持ち、物事の判断をしていくために、そして自らの人間性を豊かに育むために、専門分野を超えた幅広い読書をお勧めします。

大学の授業に取り組み、アルバイトを通じて社会に接するとともにその対価で学費や生活費を賄い、サークル・ボランティア活動そして友人たちとの交流などなどで多忙な皆さんが、読書の時間まで持てないというのが現実でしょう。しかし、そうした中でこそ、世界で何が起きているか、現代日本の課題は何かなどについても関心を持ち、是非、読書の時間を創る努力をして頂きたい。社会に向き合う**心構え・覚悟**を持って先人の財産をわがものにして頂きたいと願っています。

「新たな知」は、若い皆さんの真摯な取り組みから生まれます。学生の皆さんを取り巻く現状からいえば、スマホの LINE やインスタ、さらにゲームの誘惑から離れて、一人でも多くの方が、静かに一人で図書館を訪れる勇気を持って頂くことを願っています。もちろん、私の研究室にも立ち寄って下さい。歓迎します。

書籍情報
篠田桃紅『百歳の力』集英社新書 , 2014
佐藤忠良・安野光雅『若き芸術家たちへ』中公文庫 , 2011
むのたけじ『日本で 100 年、生きてきて』朝日新書 , 2015

不自由の中で生まれる創造性

札幌市立大学デザイン学部　大学院デザイン研究科　教授
石井　雅博

イラスト
デザイン学部3年
中島未森

筆者紹介
人間情報デザインコース
生活を豊かにすることを目指したICT応用、人間の心理や特性を計るためのICT利用、などの研究・教育に携わっています。35年以上前からPCを使ったり、プログラミングをしたりしています。起きている時間のほとんどはPCに向かっていますが、PCが好きだと思ったことはありません。

札幌市立大学芸術の森キャンパスの景観に魅了されるのは私だけではないと思います。芸森キャンパスは清家清氏（札幌市立高専初代校長）によって設計されました。起伏ある敷地の造成は最小限で、建築物を周囲の山林に溶け込ませるように配していて、デザインを学ぶ好事例にもなっています。著名な建築家による魅力的な作品は札幌市内にもたくさんあります。アントニン・レーモンド氏による聖ミカエル教会、イサムノグチ氏によるモエレ沼公園、原広司氏による札幌ドーム、安藤忠雄氏による滝野霊園頭大仏殿、同氏による渡辺淳一文学館、黒川紀章氏による札幌大同生命ビル、古市徹雄氏による六花亭真駒内ホールなどを例として上げることができます。優れた建築家の作品はどれも独創的で、視覚を引きつけて、一度見ただけで記憶に残る特徴があると思います。例示したような公共的な建物には、ランドスケープとしての性能が盛り込まれることがあるのでしょう。

全国各地の都会では、ちょっと変わった形状の建物や街並みを見かけることがあると思います。それはマンションだったり会社のビルだったり、ホテル、商業施設や工場のこともあります。それらのほとんどは著名建築家の作品ではなく、普通の生活者である無名の人々による設計です。街中での面白い造形の発見は、私には小さな楽しい体験なのですが、皆さんも同じように感じることはあるでしょうか。時には「どうしてこんな形状になったのだろう」と疑問が湧いてくるような不可解な形状のビルを見かけることもあるのですが、思わず目が奪われるという点で、魅力的であることは確かです。

『超合法建築図鑑』は都会の街並に点在する変わった形状の建築物に焦点を当てて、建築法規に関連させて解説しています。変な形をした建物も当然ながら法を徹底遵守した上で造られたものですが、そんな変な形になったのは、もしかすると「法を徹底遵守した結果」なのかもしれない、というのがこの本の視点です。

建物を建てる時は、当然ながら建築法規を守る必要があります。建築基準法だけでなく、バリアフリー法、ハートビル法、耐震改修促進法、消防法、屋外広告物法、駐車場法、都市計画法、各地の条例など、守るべきルールが多岐に渡っています。全てのルールを守る必要がある一方で、自分の資金で建築物を建てようとするクライアントとしては「限界ギリギリまでやりたい」という気持ちになるものです。例えば、その敷地で許される最大の床面積を実現したい、という要望は少なくないと思います。クライアントの希望と法律の要求を満たすようにした設計者の工夫が変わった形状の建築物を生むということです。この本はそのような建物を東京で探索、撮影、分類し、まとめた図鑑です。形状や状況などから、「彫刻系」「ファサード系」「浮遊系」「リボン系」「突出系」「冠系」「カムフラージュ系」「ペイント系」「集合系」という分類がなされています。私が個人的に好きなのは「ファサード系」「冠系」「集合系」です。規則的な繰り返しパターンのなかにアイキャッチ的なスパイスが効いていて、視覚的な面白さがあると思います。

この本で紹介されている建築は「限界までとにかく頑張りました」という雰囲気がにじみ出ていて、とにかく楽しいです。また、どのような法律を守ろうとした結果なのかが説明されているので、デザイナーの創意工夫の思考過程が垣間見られて、この点でも楽しめます。とにかく法は守らないといけないので、その点は絶対外さずに、でもそれで規制される不自由を逆に取り込み、デザインや機能に生かそう、というデザイナー達の意思が伝わってくるようです。

デザイナーやクリエーターの中には様々な制約に不満を言う人もいます。また、ルールを破る革新者や、良いものを追求するために制約を排除する人が偶像化されることもあります。このような革新的な改革が必要な場合があることは認めますが、極端な考えは正解から掛け離れていることも多いと思います。制約の中で創造性を発揮できるのも、デザイナー・クリエーターの力といえるのではないでしょうか。

書籍情報
吉村靖孝編著『超合法建築図鑑』彰国社 , 2006

特集　新たな知を求めて

「知」に導かれ、「知」がつながりあう…そして未来へ

札幌市立大学看護学部　大学院看護学研究科　准教授
古都　昌子

筆者紹介
基礎看護学領域/看護継続教育学
大学院で看護職生涯発達学を学び、「看護基礎教育の学生を含めてすべての看護職の生涯発達を支援する教育・研究活動」に取り組んでいます。
看護学生が自分らしさを大切に看護職として育ちゆくことができるように…。
看護職がそれぞれの軌跡を大切にキャリア形成につながるように…。
基盤となる講義科目や院内教育支援などの教育・研究活動に取り組む日々です。

イラスト
デザイン学部3年
滝波佑梨

先日、ふとしたきっかけで出会った絵本があります。「100かいだてのいえ」です。そんな家あるの！？小学生向けの縦に開いていく絵本ですが、1階から100階まで動物の生活風景が実に可愛らしく魅力的に描かれています。ある1日と言ってもよいですし、1年のある日とも取れますし、人生の一部とも取れます。部屋の中にブランコがあって遊んでいる日もあれば、ターザンをして楽しむ日もあり、卵を懸命に温めている日もあります。「100かいだてのいえ」に描かれるように私たちの毎日は積み重ねられています。より高く積み上げる？と言うより多様な場面を楽しみ、苦しみ、笑ったり、泣いたり、その結果として積み重なっていく。このようにふと巡り合った本から、いろいろな思考を深く巡らせる出会いがあります。その出会いは、私たちの経験と統合され、関心を強め、刻まれていくように思えます。私の興味・関心・知的好奇心は、過去から刻まれた「知」に導かれて、さらなる次の出会いにつながっていると思えます。

「知」に導かれていると書きましたが、今更ながら「知」とは何でしょうか。知識、知恵、知る？？知識ととらえることが多いように思います。私は、「知」とは実践的な活動につながり、名詞ではなく「知る」あるいは「知るプロセス」として理解しています。

ここから少し硬くて柔らかい？看護の話になります。私は大学院で「看護師の臨床の『知』- 看護職生涯発達学の視点から -」の著者である佐藤紀子先生のゼミで学びました。この本との出会いは、看護学教育管理を1年間学んだ幹部看護教員養成課程の在学中でした。「看護学教育課程開発演習」という300時間に及ぶ科目があり、並大抵ではないエネルギーで研究的な手法によりカリキュラム開発を行います。臨床経験、患者経験、教員経験を経て私の命題となっていたのは「人として人を大切にする看護とは何か」であり、その実践につながる教育でした。その1年間で「人間存在を尊重した看護実践」を顕在化するカリキュラム開発に取り組み続けました。当時、池袋の本屋、神田の古書街などをさまよい、keywordの「人間存在」「尊重」「看護実践」に関する本を探し求めました。「本は持つ物」とは、当時の指導教員に言われた言葉です。法学者ホセ・ヨンパルトの尊厳についての記述やフランスの哲学者ミッシェル・フーコーの『監獄の誕生』『フーコー・知と権力』(桜井哲夫)では、人間の強さと弱さの中で人が人を大切にしあう本質的な困難さを実感しました。その学びの中で『看護師の臨床の『知』』に巡り合ったのです。エキスパート看護師の語りから記述された第1章「人の尊厳を守る看護とは」を読んだ時、忘れ得ない響きあいを感じました。看護師の語りから臨床のリアリティが描かれ、そこから丁寧に「関わりの知」が紐解かれていました。佐藤先生は、その本の中で「看護師が臨床で用いている『知』は、いまだ混沌とした、そして、未来へと開かれていく可能性のある『知』」であり、「諸感覚の協働に基づく共通感覚的な『知』であり直観と経験と類推の積み重ねから成り立つ」と説明しています。また、臨床哲学者の鷲田清一は『聴くことの力 - 臨床哲学試論』において「臨床」とは「社会のベッドサイド」として、病棟の現場に留まらず、職業としての役割を越えたところでホスピタリティを保持しうる関係の中にあると説明しており、「臨床」は、病院内のみならず、日常の社会生活の中にあると理解できます。

今、関心を寄せているのは、看護学生の「臨床の『知』」です。看護学生が臨床において、only-youの看護師として確かなホスピタリティで患者さんに近づく時、そこに学生ならではの「関わりの知」があると思えています。実習指導を通じて私が出会った看護学生の実践には、たとえ技術力が届かない中でも「患者さん思い」であると確かに思えるからです。

その後、佐藤先生のゼミの院生になったことも「知」との出会いによる「根源的選択」として導かれたように思えています。未来に向かい、「100かいだてのいえ」のように日々を懸命に重ねる中で「知」に導かれ、「知」がつながりあう。そして新たな「知の創造」に向かい、探求し続けたいと思います。

書籍情報
岩井俊雄『100かいだてのいえ』偕成社, 2008
佐藤紀子『看護師の臨床の『知』- 看護職生涯発達学の視点から -』医学書院, 2007
鷲田清一『「聴くこと」の力 - 臨床哲学試論』TBSブリタニカ, 1999

物理的な時間と生理的な時間…

札幌市立大学デザイン学部　教授
若林　尚樹

イラスト
デザイン学部3年
秋山りな

筆者紹介
製品デザイン/人間情報デザインコース
大学では製品デザインを学び、企業では製品デザインだけでなく、製品に関わるさまざまなデザイン分野を手がけてきました。現在では動物園や水族館での子どもたちを対象にしたワークショップを数多く行っています。そこでは動物園や水族館でのワークショップを「学びをデザインする」という視点からとらえ取り組んでいます。「デザインにできること」をテーマに、実践的なフィールドでの活動を通して総合デザインとしてのさまざまなアプローチを研究しています。

時間の流れはすべての人に同じ速さで流れているものです。1分は60秒で1時間は60分、1日は24時間で1年は365日です。1年は地球が太陽の周りを一巡する周期であり、平均して約365.242日（2015年時点）となるそうです。ここで気づくのは、1年は365日ではなく約365.242日ということです。この0.242日が多いために4年に一度うるう年という366日の年を設けることで調整しています。この太陽の動きをもとにしたグレゴリオ暦は、世界の多くの国や地域で使われています。その他にも月の満ち欠けをもとにした太陰暦やマヤ暦のように金星などの周期をもとにしたものなどさまざまな暦があります。このようにわたしたちが生活する上での周期は、さまざまな天体現象をもとにしていますが、そこで流れている時間の速さや長さはどれも同じで物理的な時間と呼ばれています。

ところがそうでない時間があるらしいのです。本川達雄氏の著書である『ゾウの時間ネズミの時間』によると、“ゾウにはゾウの時間、イヌにはイヌの時間、ネコにはネコの時間、そして、ネズミにはネズミの時間”と、それぞれ体のサイズに応じて、違う時間の単位があることを、生物学は教えてくれるらしいのです。この本を書店で見た瞬間にそのタイトルが目に止まりました。たくさんの平積みの本が並べられている書店の店頭で、思わずこの一冊を手に取ってしまいました。小さな新書版の本だし、表紙のデザインは同じシリーズの他のタイトルの本と同じなのですが、なぜかこのタイトルがまるでクローズアップされているように大きく目立っていました。ゾウの時間??ネズミの時間??　さっそく購入して帰りの電車の中で一気に読んでしまいました。

この本の中では“物理的時間で測れば、ゾウはネズミより、ずっと長生きである。”すなわち時計で測る時間としてみればゾウの方がずーっと長生きということができます。しかし、“もし心臓の拍動を時計として考えるならば、ゾウもネズミもまったく同じ長さだけ生きて死ぬことになる”と書いてあるのです。これは面白い！

じっくりと読み進めてみると、ゾウの心臓の鼓動の間隔はゆっくりでネズミは早い、それとともに呼吸もネズミの方がゾウよりもぐっと早い。しかし、呼吸の間隔の時間を心臓の鼓動の時間で割ると、1回の呼吸で心臓の鼓動は4回となり哺乳類なら体の大きさによらずほぼ同じとなるそうです。さらに寿命を心臓の鼓動時間で割ってみると哺乳類ではどの動物でも一生の間に約20億回。一生の間の呼吸の回数はその4分の1の約5億回。これも哺乳類なら体の大きさによらずほぼ同じ値となるそうです。さまざまな動物の体重やサイズ、呼吸の回数や心臓の鼓動の回数などを測り、これまで多くの研究者が膨大なデータを積み重ねそれを分析することで見えてきたものだそうです。ここから導き出されたのが時間は体重の4分の1乗に比例するという法則です。これは体重が16倍になると時間は2倍になるという計算になります。呼吸や鼓動など生物はさまざまな時間の繰り返しの中で生きています。この時間の繰り返しの速度が体重によって変わる。大きいものほど長くかかり、小さいものはすばやく回転している…　だからもし心臓の拍動を時計として考えるならば、ゾウもネズミもまったく同じ長さだけ生きて死ぬことになるとみることができる。このような時間は、物理的時間と区別して生理的時間と呼ぶそうです。

この本では、生物学という分野でのさまざまなデータの分析から見えてくる法則がいろいろな視点から紹介されていて、多くの発見とそこからの興味への広がりを刺激してくれます。

書店をぷらぷらと歩いていてふと目に止まった一冊の本との出会い。たまにはゆっくりと時間をかけて書店や図書館の中を歩いてみる。そこにあたらしい知との出会いがあるかもしれません。

書籍情報
本川達雄著『ゾウの時間ネズミの時間』中公新書, 1992

特集　新たな知を求めて

異分野の知に触れること

札幌市立大学看護学部　助手
大友　舞

筆者紹介
母性看護学・助産学領域
看護師・助産師として約9年間、道内の総合病院、総合周産期母子医療センターに勤務。2016年４月より現職に至る。臨床経験から、冷えを自覚する妊婦が多いことに着目し、冷えと日常生活との関連から、より良いマタニティライフを目指した研究を行っている。

イラスト
デザイン学部3年
八柳友梨

今回、「新たな知を求めて」というテーマを頂き、真っ先に思い浮かんだ本が『世界で一番楽しい　建物できるまで図鑑　木造住宅』でした。この図鑑は、そのタイトル通りに、木造住宅ができあがるまでの仕組みが書かれ、イラストと写真の他にわかりやすい解説があり、建物に関して素人の私でも理解が進む１冊です。木造住宅に使われている木材の種類、専門的な建物の工法についての情報も詰まっています。好奇心がくすぐられるような「見せ方」としての仕掛けが随所に施されており、パラパラめくるだけでアニメーションのコマ送りのような感覚で読むことができます。その「見せ方」としての仕掛けに幼い子が食い入るように夢中になれるところが、図鑑のよさなのでしょう。その図鑑の魅力に今、引き込まれています。

看護学や助産学一筋で歩んできた私が、異分野である建物についての新たな知を求めた始まりは、「家を建てるため」でした。

マンションではなく一軒家、鉄骨の家ではなく、木造の家。主人と相談を重ね、木造の家を建てることにしました。木造住宅における様々な工法、使用している資材についての特徴をハウスメーカーから聞いていくうちに、木造住宅ができあがるまでの仕組みを知りたいと思う気持ちが自然と湧いてきました。間取りや各種設備の種類、色を決めていくことも大事なことで、要となる部分ではありますが、「食」にこだわるような感覚で、どのような素材から家ができるのか、どのような工法で作られるのかを知ることも、満足のいく私達の住まいづくりへの一歩ではないかと考えました。そこで、真っ先に手に取ったのがこの「建物ができるまで図鑑」でした。

その図鑑には、主要な材料の一つである木材について掲載されていますが、その木材の種類を見ていくうちに、木に対して馴染みのある感覚はどこから来るのかと考えている自分がいました。思い起こせば、実家の庭には父手製の丸太でできたテーブルと椅子、そして父の趣味である原木しいたけ栽培、また、母はロッキングチェアーを特等席など、本を読むにもテレビを観賞するにもその席で時を過ごすといった、木を身近に感じるような環境の中で私は育ちました。身近に木があったからこそ、馴染みのある感覚から木の特徴を生かした住まいを作りたいと思うようになったのでしょう。

「休む」という字は人が木に寄り添うと書きます。樹木の年輪のように味わいのある、そして木の温もりをといった特徴を大事にし、心も休息ができるような空間作りをテーマにした住まいを作りたいと思っています。

最後に、看護や助産の専門書や子どもたちに絵本を読むことはあっても、自分のために専門書以外の本を読んだのは何年ぶりだろうかと、正直なところ思い出したくても思い出せないくらい過去になっていました。新たな知を求めているとき、時間を忘れて夢中になれる、そんな有意義な時間が流れていることに気が付きました。教員、母親、妻の三足のわらじを履き替える大変慌しい毎日の中で、ほんの少しの時間でも夢中になれる有意義な時間は、いつしか、かけがえのない癒しの時間を作りだしていました。子どもたちが寝静まった時間、仕事をしながらも気分転換に建物に関する図鑑を読み、住まいについての空想に浸る時間は、今ではなくてはならない大切なひとときです。新しい知を求めることは、わくわくする経験にも似ている気がします。何気なく手に取った一冊の図鑑がそのような思いにさせてくれました。

ぜひみなさんも、一瞬でも夢中になれる新しい知を求めたひとときを生活の中に取り入れてみませんか。

書籍情報
瀬川康秀／大野隆司『世界で一番楽しい　建物できるまで図鑑　木造住宅』
エクスナレッジ, 2012

人と自然が組み上げる知のかたち

札幌市立大学デザイン学部　講師
大島　卓

筆者紹介
人間空間コース
札幌市立大学の前身である札幌市立高等専門学校にて環境デザインを学び、その後筑波大学、札幌市内の民間企業（ランドスケープデザイン・まちづくり支援等の設計会社）、筑波大学大学院、兵庫県立大学と各地を転々とし、４月から現職。主な専門はランドスケープデザイン、歴史的牧場や農場の産業遺産としての価値評価と動態保全など。

イラスト
デザイン学部3年
中島未森

「新たな知を求めて」という特集テーマと、自分の専門領域である環境デザインを並べてみたとき、「植物や動物との人間の関わり方」という１つのキーワードが浮かんできました。植物や動物との関係性を通じて、私たちの中の身体感覚が揺り動かされ、知識が刺激され、それが触媒となり、新たな知の創出や認識に結びついていく。そんなストーリーを頭に思い浮かべながら、今回は二冊の書籍を紹介しつつ、自分なりの「新たな知」について考えてみたいと思います。

まず一冊目が、ジル・クレマン著、山内朋樹訳の『動いている庭』です。本書はフランスを代表する庭師であり修景家でもあるジル・クレマンが、空地や放棄地の植生の観察から着想した「動いている庭」をキーワードに、自然と人間の関係性について提示するという「庭づくりの手引き」に留まらない一冊です。

「動いている庭」は、あらかじめ庭のデザインが決まっているわけではなく、その場の環境から導かれる植物の動きを中心として、庭師がその動きを解釈して方向づけ、整え、さらには昆虫や動物、来園者といった庭を織りなす様々な要素の動きによって庭のかたちをつくりだしていきます。荒れ地での植物のふるまいをモデルとし、土地を土地のダイナミズムにゆだねつつ、植物の専門家である庭師の手によって多彩で豊かな進化をうながすプロジェクトが「動いている庭」であり、植物や動物、ひいては環境との関わりの中で新しいかたちを捉えようとする著者の姿勢は、庭や修景といった既存の枠組みにとどまらず、新たなものの見方・捉え方を提示しているといえます。

もう一冊が、『旅をする木』です。1996 年ロシア・カムチャツカ半島でのテレビ番組取材への同行中、ヒグマに襲われて他界した、写真家星野道夫さんのエッセイ集ですが、広大な大地と海に囲まれたアラスカで暮すエスキモーや白人たちの生活を通して、自然の営みの中の人間という存在、その存在の逞しさ、素晴らしさ、脆さ、儚さが描かれています。その中のエピソードの１つとして、七千年前の人々の生活の痕跡が残る島に佇むトーテムポールの話があります。やがて森の一部となり消えていくトーテムポールに刻まれた、どこまでが人間の話なのか、動物の話なのかわからない様々な夢のような民話が存在し、その民話の存在は、彼らが自然との関わりの中で本能的に作りあげた、生き続けてゆく知恵だったのかもしれないと本書の中で綴られています。

ここで言及されている「民話」とは言い換えれば人類が自然との関わりの中で構築してきた知識の基盤とも呼べるものであり、それは過去の話ではなく、現在に至る話でもあり、同時に未来へと続いていく知の体系の一部でもあるのでしょう。

世界的な規模で社会が変動し、あらゆる領域において世界観・価値観の構造的変換が求められている現在、自分の生活・人生表現の基盤となるものは、これまで人類が自然環境と共に築き上げてきた様々な知の体系に対する深い造詣であると考えられます。

大きなうねりの中にある今日の社会において諸問題に対応するためには、これらの知の体系を改めて認識し、活かしながらもそれを大胆に組みなおす「複合知」を新たに築き上げていくことが重要であり、その手がかりについて、２冊の書籍はそれぞれ植物や動物との関係性を通して教えてくれています。

書籍情報
ジル・クレマン著、山内朋樹訳『動いている庭』みすず書房, 2015
星野道夫『旅をする木』文藝春秋, 1995

特集　新たな知を求めて

人は何を食べれば健康になれるのか

札幌市立大学看護学部　助教
柏倉　大作

筆者紹介
成人看護学領域
青森県立保健大学健康科学研究科食生活科学領域で修士（健康科学）を取得した後、看護師として手術室で勤務。2012年より本学の教員として札幌市立大学に在籍。現在は、周手術期における栄養状態と術後回復の関連性について研究を行なっている。

イラスト
デザイン学部3年
澤口優七

「新たな知を求めて」というテーマをいただき、私が興味のある「人は何を食べれば健康になれるのか」について書いていく。内容は、私が文献や書籍から得た結論であるが、あくまで個人の感想であることをご了承いただきたい。

私にとっての健康は、健康になることが目標ではなく、健康を維持していれば、少し無理をしてもやりたいことに取り組める状態が理想ではないかと考えている。

それでは本題に入るが、結論から言えば、人は「生鮮食品」を食べるほど健康になり、自分の「消化・吸収力」と「代謝」に合ったもの、「美味しい」と感じるものを食べることが重要である。

まず「生鮮食品」とは、ここでは「原材料の品目が３種類までの食品」としたい。肉や魚、卵、野菜はもちろんだが、例えば味噌や醤油は、製造方法の効率化のために化学的に合成されたものを利用して作られている場合もあり、必然的に原材料の種類が増え「加工食品」と判断される。ただし、少ない原材料でも植物油脂や砂糖・人工甘味料、精製穀物は、健康に悪影響があり、健康維持に焦点を当てた食品でさえ含まれている場合もある。手間はかかるが、出来合いのものではなく、できるだけ生鮮食品で作ったものを食べることが、エナジードリンクを飲むよりもはるかに元気な身体を作ることができるだろう。

次に、自分の「消化・吸収力」と「代謝」に合ったものを食べるについてだが、食べたものは大まかに消化・吸収、代謝、排泄のプロセスを経る。私は肉や魚、卵などの動物性食材は制限せずに食べることが良いと考えているが、胃腸が丈夫ではない人が同じ様に食べるとたちまち胃もたれなどの不快症状と便通の異常が伴うだろう。自分の消化・吸収力に合った食材と食べる量や時間帯などを考慮することが大切である。そして「代謝」についてだが、ここでは「エネルギーの合成」に着目したい。人体のエネルギーはアデノシン三リン酸（ATP）によって成り立っており、ATP が滞りなく合成されることで、身体は本来の機能を発揮することができる。ATP は主に糖代謝と脂質代謝によって合成される。糖代謝と脂質代謝は車のハイブリッドエンジンに例えられることもあり、どちらもバランスよく機能することが重要である。脂質代謝は、糖代謝に比べてエネルギーを合成するスピードは遅いものの、合成できるエネルギーは最低でも４倍は多い。しかし、毎食白米を食べる食生活であれば、糖代謝ばかりが優位になり、脂質代謝が優位になることが少ないため、どうしてもエネルギー不足となる傾向がある。とはいえ、いきなり脂質代謝を優位にすることは難しく、個人差はあるが、脂質代謝の適応には数ヶ月かかるため、段階的に脂質代謝に適応していくことが大切である。具体的には「プチ断食」をすることである。欧米では間欠的断食（Intermittent Fasting, IF）と呼ばれており、今回紹介したい『The Obesity Code』で取り上げられている手法である。IF は糖代謝と脂質代謝の両方を活性化する目的で取り組まれる。断食と言っても数日間何も食べないのではなく、例えば３食のうち１食抜けば約８～10 時間の断食となる。断食中は何も食べなくても良いが、純粋な動物性脂質であるバターや動物の骨からとったスープの「ボーンブロス」（鶏ガラ、豚骨、魚のアラ汁など）は摂っても良い。バターやボーンブロスは、脂質代謝を抑制するインスリンがあまり分泌されない上にエネルギー源にもなり、アミノ酸やミネラルなどの栄養素も豊富であることから推奨されている。脂質代謝を活性化する方法は他にもいくつかあるが、以上のように糖代謝と脂質代謝の両方が機能するようになることで、エネルギー合成量が増え、心も身体も元気になる。

３つ目の「美味しいものを食べる」のは言うまでもなく、どんなに身体に良くても美味しくなくては意味がないし、加工食品でも美味しいものは人を癒すので、食事制限はほどほどにして、週に１度や２度は好きなものを好きなだけ食べて良いのではないかという提案である。

最後に、ダイエット目的で激しいカロリー制限をする若い女性が多いようだが、栄養素を考慮しないカロリー制限にはダイエット効果などない上に、健康には一切寄与しないことをお伝えしておこうと思う。

書籍情報
M.D. Jason Fung『The Obesity Code: Unlocking the Secrets of Weight Loss』Greystone Books, 2016

「正義」とは何か？

札幌市立大学デザイン学部　大学院デザイン研究科　講師
金　秀敬

筆者紹介
人間情報デザインコース
マルチモーダル知覚に関する研究をやっています。人間の直感的な判断や好みに影響する、構造の解明および評価方法について検証し提案しています。

イラスト
デザイン学部3年
熊谷香奈

「正義」とは何か？

正義と不正義の境目はどこか？

経済的な不公平を解消するために、富裕層への税金負担を重くし、貧困層を助けることが正しい行為なのか、それとも、「見えざる手」に任せた方が、正しい行為なのか。多くの人の幸せを思えば、富の再分配は妥当であるが、頑張って仕事に邁進したい「意欲」が落ちる可能性も考えうる。例をあげて考えてみよう。

のどかな田舎。人気のない線路を時速 300km で走っている汽車。突然、機関室から線路で作業している５名の人が見えた。停止しようとブレーキを掛けたが、効かない。ブレーキが故障していたのだ。しかし、横の線路を見たら、そこでは１名の人が作業をしているのではないか。どうすれば良いのか？線路を変えて一人の犠牲で５名の命を救うのが「正しい」選択なのか？それとも、そのまま線路を走るのが「正しい」選択なのか？視点を変えてみよう。

のどかな田舎。人気のない線路を汽車が走ってきている。時速 300km。走っている汽車を、橋から眺めているあなた。時速 300km で走っている線路の先には、５名の作業者が見えた。ブレーキが効かない様子の汽車。しかし、「あなた」の横に、太った男性一人が立っていることが見えた。彼を線路に落とせば、汽車を止めることができるに違いない。あなたの体重では汽車を止められない。５名の作業者を助けるためには、あなたの隣に立っている、彼を落とすしかない。ただし、彼を落とすのは「あなた」。どうすれば良いのか？

前述した例においては、線路を変えることで、一人の犠牲で５名を助ける方が「正しい」と判断した人が多数であるだろう。しかし、「あなた」が１名の犠牲者を落とす「選択」を迫られる状況になると、前述した例で当然だと思った「正義」がそのまま適用されにくかっただろう。なぜならば、落とされた彼の意思に反する選択を「あなた」が行わなければならないためである。視点を変えてみよう。

映画タイタニックは、1912 年に実際に起きた英国客船タイタニック号沈没事故を基に、貧しい青年と上流階級の娘の悲恋を描いている。映画タイタニックでの沈没シーンを思い出してみよう。沈没し始めているタイタニック号、救助船に乗り換えて、助けを待たなければならない状況。救助船に乗るために待機していたのは 11 名。しかし、最後に残った救助船に乗れるのはただ 10 名のみ。誰か一人は残されなければならない。一人の犠牲で 10 名の命が救われるのであれば、それが正しいだろう。しかし、その「一人」があなたであれば？一人の犠牲で、10 名の命が助けられるのであれば「正しい」と判断した問題が、「私」の介入により異なる問題になる。

「正義」を「定義」するためには、「理想」と「現実」の意味を理解しなければならない。それは「私」という概念の位置選定が重要であるためだ。「私」を軸とする判断のバランスポイントが、どこにあるかによって「正義」の「定義」が変わり得るためだ。それでは、デザインにおける「定義」はどうなるのだろう。

「デザイン」とは何か。「感性」とは何か。「経験」とは何か。講義やプレゼンテーションの際に、聴衆へ質問する。しかし、大半の場合、答えはなかなか出てこない、もしくは、どこかで聞いた覚えのある定義を淡々と述べる。質問を変える。「定義」とは何？「義を定める」ことである。では、義を定める主体は誰？ここまでくると、聴衆側から動揺する様子が見える。また、質問を変える。「デザイン」とは誰が何をすること？「感性」を調べるためには、誰を対象にする？「経験」させるデザインとは誰のため？つまり、「(あなた自身を含む) 人間」にとって「デザイン」とは、「感性」とは、「経験」とは何の意味を持つのかについて聞いていることを理解してもらうことで、質問の意図が伝わるのだ。「定義」を知ることに止まっているだけでは、分かることはできない。多様な知見を有する方々の「声」に耳を向け、問題の本質を理解した上で、「今」に適した解決案を提案する姿勢から「正義」の意義が定まるのではないだろうか。「あなた」は「今」「何」を見ていますか？その答えこそが、「定義」ある生き方の決め手であるのではないでしょうか。

書籍情報
マイケル・サンデル　『これからの「正義」の話をしよう：いまを生き延びるための哲学』早川書房 , 2010

文学について

札幌市立大学デザイン学部　人間情報コース　２年
芦口　瑞歩

イラスト
デザイン学部3年
八柳友梨

「吾々にとって幸福な事か不幸な事か知らないが、世に一つとして簡単に片付く問題はない。遠い昔、人間が意識と共に与へられた言葉といふ吾々の思索の唯一の武器は、依然として昔乍らの魔術を止めない。劣悪を指嗾しない如何なる崇高な言葉もなく、崇高を指嗾しない如何なる劣悪な言葉もない。而も、若し言葉がその人心幻惑の魔術を捨てたら恐らく影に過ぎまい。」

これはあまりに有名な小林秀雄の評論、「様々なる意匠」の書き出しです。はじめこそ、その鮮やかさと威厳的な態度に気圧されてしまいそうなところですが、これほど簡潔に言葉を語っている文はないように思えます。言葉にまつわるこれらの文章が最もその性質を体現しているように、言葉の持つ「人心幻惑の魔術」が、時間をも超えて人々を魅了し続けていることは紛れもない事実でしょう。

しかし近年は「若者の文学離れ」という言葉が叫ばれています。前世代を知らない私にはそれが事実なのか定かではありませんが、確かに数ある書籍の中で、わざわざ文学を選んで読む人々は減っているのかもしれません。

ましてや、近代や古典の名作は難解だといって遠ざけられる傾向にありますし、原著の代わりに漫画版が出たり、解説番組が人気になったりもしています。哲学書ですら易しい言葉を語る現代に、難解な言葉で敷居を上げることこそ、文学を大衆から遠ざける自尊的な行いであると考えられることも少なくないようで、同じ主題を平易な言葉で表せるのなら、それに越したことはないのかもしれません。

しかし、どうしてもここに疑問が生じます。はたして平易な文章は、原著の持つ一種の晦渋さに成り代わることができるのでしょうか。これは私自身の貧困な経験則でしかありませんが、100ページの解説文が、原著の一行以上に多くを語ることは決してありません。もちろん、三好達治の詩評が教えてくれるように、詩の解説が詩であるところの作品もあり得ます。しかし優れた文学であればあるほど、それを構成する言葉には何者も代わることはできない、例えば、『砂の女』を読んでストーリーを150字に要約することは国語の得意な人ならさして難しくはない問題ですが、それと同時に全く不可能なこと、もしくは全くすべきでないことでもあるのです。

文学の本質であると私がおもうものは、その言葉自身に他なりません。文学を読むことは修辞という意匠を味わい続けることに等しく、たとえ難解でも真の文学を読むべきなのは、100回目にも、それまで知りもしなかった事実を発見できる程、深淵な意味の取り合わせがあるからです。マラルメがその不可解な言葉の並びで示すのは、彼が発見した自然法則の類ではなく、万人が読み解くことを許された彼の情景そのものではないですか？　レトリックとはしばしば着飾りの、本質を伴わないもののように言い表されますが、優れた設計において、思想と衣装とは、決して乖離できないひとつものであるように思えます。

私にとって読書とは、少なくとも趣味ではなく、特別楽しいことでもありません。むしろ、とても困難に感じることもしばしばあります。優秀な友人は、数学の問題を解くほうが本を読むより簡単だと言ったことがありましたが、本を読んで思考することは、時折想像以上の障壁をもたらします。しかしキケローの言うように、生きることは考えることであり、小林秀雄によれば、言葉は「思索の唯一の武器」なのです。来るべき困難に、さして嵩張るわけでもない最良の武器を、どうして携えないことがあるでしょう。

書籍情報

小林秀雄『Xへの手紙・私小説論』　新潮文庫 , 1962

1つに始まり2つに終わる

札幌市立大学看護学部　3年
工藤　杏子

イラスト
デザイン学部3年
秋山りな

看護大学に入学して３年、各領域を学ぶ中で私がとりわけ惹かれた分野は、精神看護領域であった。授業内での妄想・幻聴エピソードの衝撃に興味をひかれ精神分野をもっと知りたいと思う中で、興味を持ったのが『安心して絶望できる人生』という本であった。

本著では精神障害を抱える人たちが暮らす共同体である「浦河べてるの家」で行われている当事者研究について述べられている。当事者研究とは、病気によって「生きづらさ」を感じている人たちが考え・行動など自分の傾向を自ら研究し「自分の助け方」を見つけ出していくプロセスであり本著ではべてるの家の人たちの実際の当事者研究レポートが記載されている。

私は精神障害に対して漠然と、怖い・暗い・幻聴は攻撃的というイメージを持っていたが本著の中の幻聴は必ずしも私のイメージだけのものではなかった。統合失調症の女性の当事者研究である「“劇場型”統合失調症の研究？小泉さん幻聴と霞が関の仲間たち？」では攻撃的な“チンピラ幻聴”の他に、小泉さんや麻生さん、安倍さんなどの政治家たちの声が聞こえる“永田町幻聴”というとてもユニークな幻聴が紹介されていた。この幻聴は定期的に閣議を開いたり、帰りは黒塗りの車で帰ったりと行動も実際の永田町に準じている。特に小泉さんは当事者の女性を誉めたりチンピラ幻聴を追い払ったりとやさしい幻聴らしい。「『千高さん、がんばっているね』とあの笑顔でいわれるとたまらない」と当事者にとって支えにもなるような永田町幻聴はいい意味で私の中の幻聴のイメージを壊してくれた。また、私の精神障害のイメージは統合失調症のみで精神領域を遠く感じていたが、いわゆる“人格障害系”の当事者の世渡り術まとめを読んで「んん？こんな女子周りにいたぞ？？」と自分の過去の人間関係と照らし合わせて思わず声に出して笑ってしまった。精神領域を自分により近い角度から見ることができて本書を読む前と後で私の中のイメージは大分変わっていた。

私は遠巻きな興味から縁あってこの本を読んだが、全体を通した時「私この本が読みたかったんだ」と自分の背中を押されたような印象を受けた。その一番の理由は、私も自分にとっての生きづらさを持っていて、その生きづらさを探究し理解できたときに視界が開けた経験があったからである。私にとって理解することが解決の第一歩であり、そこに至るのが一番難しい工程であった。だからこそ本著で述べられている苦労や弱さへの考え方、当事者の自己研究への困難な道のりが心に刺さり自分の元々持っていた考えにさらに同調することができたのであろう。また、「『個人苦』から『世界苦』へ」という章では、著者の向谷地さんの生きづらさを乗り越えた経験が述べられている。「ところが、不思議なことに、八方塞がりの憂いの感覚が、なぜか自暴自棄な感情や生き方につながらずに、やり過ごすことができました。それは、私の行き詰まりは、私個人に偶然起きた身の不幸ではなくて、私自身を超えた『人間のテーマ』として、私は受け止めることができたからです。つまり、青森の片田舎に暮らす私個人のエピソードを超えて、自分の行き詰まり感や苦労はある意味、世界が抱える現実の行き詰まりにつながっていたのです」と。自分自身の最も内側の部分で悩んでいる最中に、視野が狭まるどころか視野を広げ外と繋げることで活路を見出す能力はもはや才能ではないだろうか。これは私の行き詰まりでは全く出てこなかった考え方であり新たな知識を授けられた気分であった。

私が本著を読む前に求めていたのは幻聴や精神領域の雰囲気の知識であった。しかし本著を読み終わり、得たのは、当初求めていた知識だけではなく、実体験への同調、そして新しい考えを持つためのヒントである。一つの知識を求めることで得られるものは思ってもみなかったような発見や新たな課題や興味など計り知れないように感じた。別の価値のあるものはどこに転がっているかはわからない。自分の探し物以外にも目を向けて吸収していけるような柔軟さやセンスをぜひとも磨いていきたいものである。

書籍情報

向谷地生良，浦河べてるの家著『安心して絶望できる人生』日本放送出版協会 , 2006

知の迷宮へようこそ。-図書館ぶらぶら歩きへのお誘い-

札幌市立大学事務局地域連携課　課長
上田　理子

筆者紹介
札幌市立大学事務局にて、図書館、地域連携研究センターの事務局を所管。図書館に加え、地域連携・社会貢献、研究支援、国際交流事業を守備範囲としている。自分で購入する本は文庫と新書と手軽なもの中心。新聞の書評等に取り上げられた少し硬派な書籍を図書館にリクエストすると、買ってもらえることに味をしめている。知らなかったことを知るのが好き。

イラスト
デザイン学部3年
熊谷香奈

大学の図書館ってカビ臭そうですって！騙されたと思って、札幌市立大学の図書館にいらっしゃい。全然違いますから。

まず、芸術の森の図書館に来てみてください。

最初は、１階です。簡潔な文章と絵で子供たちを魅惑する絵本、卒業生の作品[1]、飛び出す絵本[2]があります。そして視聴覚資料（AV）。もちろん２時間ぐらいの映画のDVDもありますが、30分ぐらいのパラパラ漫画の作品[3]なんかはいかがでしょう？著作権処理がされていれば館外貸し出しも可能です。

２階は、文字のいっぱい詰まった、面白くなさそうな本ばかりじゃないか、ですって？そんなことありませんって。ちょっと棚の間を彷徨ってみてください。棚は日本十進分類法（NDC）で分類ごとに整理されています。

例えば分類500番台の「工業」には、タッパウェアに入った本[4]がありますし、670番台の「商業」には、お土産のパッケージを集めた一冊[5]。720番台の「絵画」には、手塚治虫[6]や、野田サトル[7]の漫画も配架されています。異色なところでは、丸い装幀の本[8]、和紙の見本帳[9]、ダビンチの手書きメモ[10]等々。禁帯出なので、館内でどうぞ。

次は、桑園の図書館のご紹介。ここもこじんまりしていますが、専門書ばかりではありません。もちろん、専門分野の492番台の看護学は充実していますし、関連する医学分野は490番台に集められています。

でも専門分野に加えて、596番台の棚もウロウロしてみませんか。料理[11]の本が結構充実しています。視点を変えて、720番台もぜひ。ここには、医療[12]、介護[13]、性[14]をテーマにした漫画があります。難しいテーマ、現代的なテーマも漫画だと理解しやすいことってありますよね。

900番台の文学の棚には、ハリー・ポッターの英語版[15]、札幌在住の人のエッセー[16]も所蔵しています。

この他に、DVDや絵本もあります。例えばアルツハイマー病[17]などはドキュメンタリーのDVDのほうが理解しやすいかもしれません。また、子どもたちと接する時には「大きなかぶ」[18]、札幌発の「おばけのマール」[19]など、お馴染みの絵本が役立つのではないでしょうか。図書館としては、いろいろな視点の資料を提供することによって、利用者の皆様のお役に立てればうれしいです。

え？必要な本が見つからないって？

欲しい資料にすぐにたどり着きたいなら、図書館のOPAC（学内蔵書検索）を使ってください。使い方がわからない時や、学内に資料がない場合にも、あきらめずにカウンターへ！きっと解決手段があります。

そうそう、図書館を貴方の色にカスタマイズという方法もあります。図書館にない資料が欲しくなったら、リクエストしてみてください。買ってもらえる確率は結構高いです。

図書館で、ぶらぶらと書棚の間を彷徨ってみませんか？いろんな出会いが貴方の来訪を待っています。貴方のための知の迷宮です。次のご利用をお待ちしています。

書籍情報

1 北海道シマフクロウの会 / 土屋慶花，『シマフクロウちびのぼうけん』，北海道新聞社，2016.（芸術の森 1F 絵本 726.6||Hok，桑園 絵本 726.6||Hok）

2 ルイス・キャロル原作 / ロバート・サブダ / わくはじめ，『不思議の国のアリス』，大日本絵画，2004（とびだししかけえほん）.（芸術の森 1F 絵本 726.6||Sab，桑園 絵本 726.6||Car）

3 『鉄拳パラパラ漫画作品』［ビデオレコード］，よしもとアール・アンド・シー，2012.（芸術の森 1F AV 778.77||Tek）

4 Mit einer einleitung von Lieven Daenens，『Tupperware : transparent』，Hatje Cantz，2005.（芸術の森 2F 一般図書 "，501.83||Tup）

5 『おみやげのデザイン』，ビー・エヌ・エヌ新社，2014.（芸術の森 2F 一般図書 675.18||Omi）

6 手塚治虫，『ブッダ』（1-14巻），潮出版社，2010.（希望コミックス）.（芸術の森 2F 一般図書 726.1||Tez）

7 野田サトル，『ゴールデンカムイ』（1-9巻），集英社，2015.（ヤングジャンプ・コミックス）.（芸術の森 2F 一般図書 726.1||Nod）

8 Cecilea Dean，James Kaliardos 編『Visionaire 26 : Fantasy』Visionaire，1998.（芸術の森 2F 特別閲覧室 589.2||VIS||26）

9 全国手すき和紙連合会編，『日本の紙 : 全国手漉き和紙見本帖』，全国手すき和紙連合会，1997.（芸術の森 1F 書庫 585.6||Zen）

10 レオナルド・ダ・ヴィンチ，原典翻刻および校訂 アウグスト・マリノーニ / 日本語訳 斎藤泰弘他，『レオナルド・ダ・ヴィンチ パリ手稿』，岩波書店，1989-1995.（芸術の森 2F 特別閲覧室 702.37||LEO）

11 小林弘幸 他 監修，『発酵食レシピ : 健康にもっと効く食べ方がわかる』，宝島社，2016.（TJ mook，NHK趣味どきっ!）.（桑園 一般図書 596||Hak）

12 村上もとか，『Jin : 仁』（1-13巻），集英社，2010-2011.（集英社文庫，コミック版）.（桑園 一般図書 726.1||Mur）

13 岡野雄一，『ペコロスの母に会いに行く』，西日本新聞社，2012.（桑園 一般図書 726.1||Oka）

14 六花チヨ，『IS : ai-esu』（1-17巻），講談社，2003-2009.（講談社コミックスキス）.（桑園 一般図書 726.1||Rok）

15 J.K. Rowling，『Harry Potter and the sorcerer's stone』，Scholastic，1999.（桑園 一般図書 933.7||Row）

16 佐藤きみよ，『雨にうたれてみたくて : 愛しの人工呼吸器をパートナーに自立生活』，現代書館，2016.（桑園 一般図書 916||Sat）

17 関口祐加企画・製作・監督・撮影・編集，『毎日がアルツハイマー』（1・2）［ビデオレコード］. シグロ / 紀伊國屋書店，2012.（桑園 AV 493.758||Sek）

18 A. トルストイ再話 / 内田莉莎子 / 佐藤忠良，『おおきなかぶ : ロシアの昔話』，福音館書店，2007.（こどものとも絵本）（桑園 絵本 726.6||Tol）

19 なかいれい / けーたろう，『おばけのマールとまるやまどうぶつえん』，中西出版，2005.（桑園 絵本 726.6||Oba）

『分解してみました：現代人のためのテクノロジー解体新書』

トッド・マクレラン 著 / 金成希 訳『分解してみました : 現代人のためのテクノロジー解体新書』，パイインターナショナル，2015.（芸術の森 2F 一般図書 530||Mcl）

イラスト
デザイン学部3年
澤口優七

芸術の森キャンパス・ライブラリー司書
田中　野穂

子どもの頃、もちろん大人になってからでも良いのですが、手近にあるものを「分解」したことがある方は意外と多いかと思います。例えば、文房具や自転車、小さな電化製品。何かの拍子に使えなくなってしまったものを、元に戻そうとした時、殻のような外側のケースを開いて中を覗き込むと、様々な形の部品が、必要な分、必要な配列で並び、小さな世界を作り上げていることに好奇心を擽られたり、驚いたりしたことがあるはずです。

本書はタイトルのとおり、「分解」をテーマにした１冊となっています。機械工学など専門的な難しい本ではないかと身構える必要はありません。写真家である著者のトッド・マクレラン氏が、デザインの代表作といわれる様々な製品を分解し、写真に収めるという分かりやすい内容となっています。しかし、この分かりやすさは写真家としての彼のこだわりが、よく表れている部分とも言えます。消火器から始まり、軽飛行機まで全50種類の製品を分解し、２パターンの手法(製品を取り外した順に並べる / 部品を上からばらまく)で撮影された写真は、静と動の相反する視点からモノを捉え、製品から部品へと分解されたモノの形を私たちに明らかにしてくれます。取り外した順に、規則正しく並べられた部品たちの写真は、いくら見ていても飽きないくらい美しく、また、ばらまかれた部品たちの写真は、まるで空中で分解してしまったのかのような不思議な世界観があります。その写真の美しさ、面白さはもちろんのこと、写真には製品名と部品の数が記載されています。例えば、機械式腕時計の方がiPod2より部品数が多いことは、分解しなければ知りえない事実です。

たくさんのものに囲まれ、それが当たり前の世界に私たちは生きていますが、当たり前だと思っていたものは外側を見ていただけで、その本質や構造に疑問を持ち、辿り着くことは稀です。視点を変えること、面白いと思うことを素直にやり続け、突き詰めることの楽しさを教えてくれる本書。ぜひ一度、手に取ってみてください。

『ベンドシニスター』『マインドフルネス入門講義』

ウラジーミル・ナボコフ 著『ベンドシニスター』，みすず書房，2001.（芸術の森 2F 一般図書 933||Nab）／
大谷彰 著『マインドフルネス入門講義』，金剛出版，2014.（桑園 一般図書 498.39||Ota）

桑園キャンパス・ライブラリー司書
若木　美桜

「優しさ」とは、どのようなものでしょうか。イメージとしては、親切であること、人当たりのよいことなどが浮かんできます。優しさについて考える時、私が思い出すのは『ベンドシニスター』という小説です。作者ナボコフは、この作品について、「『ベンドシニスター』の物語は実際には、グロテスクな警察国家における生と死の物語ではない。主要なテーマは、愛に満ちたクルークの心の鼓動、深いやさしさが蒙りやすい苦悩ということになる」と書いています。しかし、主人公クルークが特別に優しい人物だと感じる読者は多くはないと思います。哲学者である彼は、作中、ディストピア小説の定石通り、恐ろしい運命に見舞われる悲劇的な人物です。印象としては、朴訥で知的、独裁政権に屈さず、深い悲しみを負った人、といったところです。そして、冒頭の彼の目を通した風景描写（是非読んで下さい！）を読めば、たぐい稀な観察眼の持ち主であることも分かります。その目は、シャーロック・ホームズのような、細部から何かを予測したり突き止めたりするようなものではなく、ただ単に「あらゆるものを見逃さない」目です。もしかすると、優しさとはそういうものなのかもしれません。

マインドフルネスという言葉をご存知でしょうか。ここ数年、リラクゼーションとしてや、精神医学の分野でも注目されているもので、今現在の、自分の周りで起きていること・心の中で起きていることを意識し、それらを否定も肯定もせず受け入れるという心の在り方のことです。私は物事に取り組む際の集中力を上げたいと考え、『マインドフルネス入門講義』を読み始めたのですが、その考え方・世界の捉え方は、厳密には違うのでしょうが、まるでクルークの、ひいては作者ナボコフの目のようだ、と感じました。日常生活の中では簡単に通り過ぎてしまうような風景の細部や、イヤホンをして耳を塞いでしまう喧噪を無視せず拾い上げること、自分の心や体のどんな小さな動きにも注意を払うことは簡単なことではありません。しかしそれこそが、世界に対し、自分に対し誠実であること、そして優しくあることであり、私たちの人生の要なのかもしれません。

芸術の森キャンパス・ライブラリー 企画展示

さっぽろアートステージ特別企画ART BOOK FAIR『Drawing!!～見る秋から描く秋へ～』

2016年11月7日(月)～ 12月3日(土)

展示風景

展示ポスター

芸術の森キャンパス・ライブラリーでは、『Drawing!! ～見る秋から描く秋へ～』を、2016年11月7日（月）- 12月3日（土）の期間開催いたしました。こちらは、さっぽろアートステージ特別企画のART BOOK FAIRとの連動企画になっており、毎年札幌市内の書店と図書館がおすすめの本を紹介しています。

今回の企画では、「描く」ことを目的とした参考書や画集を中心に約100点の資料の展示を行いました。

展示の特徴として、「何で絵を描く？（描き方に関する図書）」、「何の絵を描く？（資料集）」、「プロの絵を見てみよう！（イラスト集などのプロの作品が掲載された図書など）」という３種類のコーナーに分けて展示した点が挙げられます。本館はデザイン学部の附属図書館ということもあり、絵に関する資料が豊富であったことから、厚みのある展示になりました。また、学生アルバイトが中心となって制作したコーナー用のサインは非常に可愛らしく、わかりやすい展示の一助となりました。

そのほか、装飾にも力を入れています。展示の中央に位置するパネルは、パソコンの画面とペンタブレットというデジタルイラストを描くための道具をかたどったものです。いずれもデザイン学部の学生にはなじみが深いモチーフで、宣伝用ポスターのデザインと合わせています。パネルのほかにも、学生アルバイトを中心に資料紹介のPOPを制作しました。普段新着図書用に展示しているPOPとは異なり、指定のフォーマットに紹介図書の解説などを参考にしながら絵を描いたものになっています。文章に加え図書を参考にした絵を描くことで、資料への理解が深まる見ごたえのある展示となりました。その甲斐もあってか、中央の展示の前で足を止める利用者も、学生を中心として数多く見受けられました。学生の貸出数も前年度の同じ時期より増加していたことから、見ごたえだけでなく実際の利用にもつながっていたことがうかがえます。

イラスト付きのPOP

今回の展示で、絵を描くことに興味がある方はより深く学び、興味がない方は絵を描くきっかけになりましたら幸いです。今後も、学生をはじめとした多くの利用者への学びのきっかけとなる展示を目指して参りますので、本館をどうぞよろしくお願い致します。

（芸術の森キャンパス・ライブラリー司書　熊木）

附属図書館 貸出・視聴ランキング

集計期間：2016/10/1～2017/9/30

芸術の森

図書貸出ランキング

No.1	デザイン入門教室：特別講義：確かな力を身に付けられる学び、考え、作る授業	坂本伸二著/SBクリエイティブ/2015 芸術の森 2F 一般図書 021.4/Sak
No.2	日本語のロゴ：漢字・ひらがな・カタカナのデザインアイデア	フレア, グラフィック社編集部編/グラフィック社/2013 芸術の森 2F 一般図書 674.3/Nih
No.3	クリエイティブ業界を目指す人のためのポートフォリオ見本帳	尾形美幸著/エムディエヌコーポレーション/2011 芸術の森 2F 一般図書 674.4/Oga
No.4	建築家なしの建築 (SD選書:184)	B.ルドフスキー著/渡辺武信訳/鹿島出版会/1984 芸術の森 1F 文庫新書 080/Sds/184
No.5	本質を一瞬で伝える技術	溝田明著/KADOKAWA/2014 芸術の森 2F 一般図書 674.3/Miz
No.6	陰翳礼讃 改版 (中公文庫)	谷崎潤一郎著/中央公論社/1995 芸術の森 1F 文庫新書 914.6/Tan
No.7	世界一わかりやすい3ds Max操作と3DCG制作の教科書	奥村優子, 石田龍樹著/技術評論社/2016 芸術の森 2F 一般図書 007.642/Oku
No.8	ポートフォリオ・クリエイション：自分を売り込むプレゼンの成功例	藤田夏海 [ほか編]/パイインターナショナル/2011 芸術の森 2F 一般図書 674.33/Pot
No.9	色彩検定2級本試験対策：文部科学省後援 [2015年版]	熊谷佳子著/学習研究社/2015 芸術の森 2F 一般図書 757.3/Kum/2015
No.10	なるほどデザイン：目で見て楽しむデザインの本。	筒井美希著/エムディエヌコーポレーション/2015 芸術の森 2F 一般図書 021.4/Tsu

総　評

今年度も1位の「デザイン入門教室」をはじめデザイン関連書やポートフォリオに関する図書が多くランクインし、作品紹介方法等実用書への関心が伺えるランキングとなりました。(芸術の森キャンパス・ライブラリー司書　上田)

AV視聴ランキング

No.1	秒速5センチメートル	新海誠原作・脚本・監督/コミックス・ウェーブ・フィルム/2008 芸術の森 1F AV 778.77/Byo
No.2	The lord of the rings : the fellowship of the ring Special extended DVD edition	Peter Jackson監督/J.R.R. Tolkien原作/日本ヘラルド(発売)/2002 芸術の森 1F AV 778/Lor/1
No.3	戦場のピアニスト	ロマン・ポランスキー監督・製作/ウワディスワフ・シュピルマン原作/ロナルド・ハーウッド脚本/ロベール・ベンムッサ, アラン・サルド製作/東芝デジタルフロンティア (発売)/2003 芸術の森 1F AV 778/SEN
No.4	シンドラーのリスト	スティーブン・スピルバーグ監督/スティーブン・ザイリアン脚本/トーマス・キニーリー原作/ユニバーサル・ピクチャーズ・ジャパン (発売)/2004 芸術の森 1F AV 778/SCH
No.5	カーズ	ジョン・ラセター監督・脚本/ジョー・ランフト共同監督/ブエナビスタホームエンターテイメント (発売)/2006 芸術の森 1F AV 778.77/Car
No.6	Stanley Kubrick's the shining	Stanley Kubrick監督/Stanley Kubrick, Diane Johnson脚本/Stephen King原作/ワーナー・ホーム・ビデオ(発売)/2009 芸術の森 1F AV 778/Sta
No.7	おくりびと	滝田洋二郎監督/小山薫堂脚本/セディックインターナショナル, 小学館 (発売)/2009 芸術の森 1F AV 778/Oku
No.8	Stand by meドラえもん	藤子・F・不二雄原作/八木竜一, 山崎貴監督/小学館/2015 芸術の森 1F AV 778.77/Dra
No.9	Vincent van Gogh : an explosion of colours	Ludy Kessler脚本・監修/Ludy Kessler, Rincovision Zurich制作/Amadeo Video/1991 芸術の森 1F AV 723/HIM
No.10	チャーリーとチョコレート工場	ティム・バートン監督/ロアルド・ダール原作/ワーナー・ホーム・ビデオ (発売)/2006 芸術の森 1F AV 778/CHA

総　評

昨年に引き続き、新海誠監督の「秒速5センチメートル」が人気です。9位には、北海道で15年ぶりの展覧会が話題となったファン・ゴッホの言葉とともに、実際の風景をたどったLDがランクインしています。ゴッホだけではなく、ピカソやダリなどの視聴覚資料も所蔵していますので、是非ご利用ください。(芸術の森キャンパス・ライブラリー司書 谷口)

桑園

図書貸出ランキング

No.1	病気がみえる 2 循環器 第3版	医療情報科学研究所編/Medic Media/2010 桑園 一般図書 492/Iry/2
No.2	病気がみえる 7 脳・神経	医療情報科学研究所編/Medic Media/2011 桑園 一般図書 492/Iry/7
No.3	ウエルネスからみた母性看護過程+病態関連図 第2版	佐世正勝, 石村由利子編/医学書院/2012 桑園 シラバス図書 492.924/Sas
No.4	病気がみえる 8 腎・泌尿器 第2版	医療情報科学研究所編/Medic Media/2014 桑園 一般図書 492/Iry/8
No.5	病気がみえる 4 呼吸器	医療情報科学研究所編/Medic Media/2007 桑園 一般図書 492/Iry/4
No.6	ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント：同一事例による比較 第3版	渡邊トシ子編集/ヌーヴェルヒロカワ/2011 桑園 一般図書 492.913/Wat
No.7	病気がみえる 6 免疫・膠原病・感染症	医療情報科学研究所編/Medic Media/2009 桑園 一般図書 492/Iry/6
No.8	看護過程展開ガイド：実習記録の書き方がわかる：ヘンダーソン、ゴードン、NANDAの枠組みによる 改訂版	任和子編著/照林社/2009 桑園 一般図書 492.914/Nin
No.9	写真でわかる母性看護技術：褥婦・新生児の観察とケア、母乳育児を理解しよう!	平澤美恵子, 村上睦子監修/インターメディカ/2008 桑園 シラバス図書 492.924/Sha
No.10	母性看護学各論 第13版	森恵美著者代表/医学書院/2016 桑園 シラバス図書 492.908/Kei

総　評

カラーイラストでわかりやすい「病気がみえる」シリーズがランキングの半数を占めました。このシリーズには予約が多く寄せられており、今後も利用集中が見込まれます。また講義の予習・復習に役立つシラバス図書もランクインしています。(桑園キャンパス・ライブラリー司書 福士)

AV視聴ランキング

No.1	ユマニチュード：優しさを伝えるケア技術	IGM Japon/医学書院/2014 桑園 AV 369.26/Hum
No.2	看護の工夫をしていますか? (看護教育シリーズ. 認知症高齢者の看護：パーソン・センタード・ケアの視点：急性期病院編 2)	医学映像教育センター/2015 桑園 AV 492.929/Nin/2
No.3	意思決定の援助をしていますか? (看護教育シリーズ. 認知症高齢者の看護：パーソン・センタード・ケアの視点：急性期病院編 3)	医学映像教育センター/2015 桑園 AV 492.929/Nin/3
No.4	コミュニケーションはとれていますか? (看護教育シリーズ：認知症高齢者の看護：パーソン・センタード・ケアの視点：急性期病院編 1)	医学映像教育センター/2015 桑園 AV 492.929/Nin/1
No.5	公衆衛生看護活動における地域診断 (Maruzen audiovisual library. 続・地域看護活動とヘルスプロモーション 4)	丸善出版映像メディア部/2014 桑園 AV 492.91/Jis/2
No.6	高齢者のレクリエーション支援：遊びが福祉を豊かにする	アローウィン/2013 桑園 AV 369.26/Kor
No.7	もうすぐ出産～生まれてすぐ：妊娠後期から生後1ヶ月頃まで (パパもいっしょに見たい!聞きたい!はじめての赤ちゃんのこと 1)	ビデオ・パック・ニッポン/2014 桑園 AV 599.4/Haj/1
No.8	呼吸・循環・代謝 (看護教育シリーズ. 目で見る新生児看護 3：胎外環境への適応生理 1)	医学映像教育センター/2010 桑園 AV 492.921/Med/3
No.9	手術後の看護 (周手術期の看護ビデオシリーズ 3)	インターメディカ/2004 桑園 AV 492.9163/Shu/3
No.10	地域看護学概論 (Maruzen audiovisual library. 地域看護活動とヘルスプロモーション 1)	丸善/2007 桑園 AV 492.99/Chi/1

総　評

例年人気の高い「看護教育シリーズ」の中でも「認知症高齢者の看護」をテーマにした資料が上位を占めました。さらに年々注目の高まる地域看護関連の資料もランクインしました。高齢社会の深刻化に伴う学生の興味関心の高まりが見受けられます。(桑園キャンパス・ライブラリー司書 福士)